

春 分 儀 式

I O S 儀式魔術文書 VE11A



THE OFFICIAL ORGAN
OF

I O S

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I O S

THE VERNAL EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING

I O S ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に春分点の前後48時間以内に実施すること。2011年の春分点通過は3月21日(月)午前8時21分(日本標準時)である。儀式内容は、ヘハロートの魔術公式を利用して春分の祝祭を実施する。

その際、未曾有の被害を招いた3月11日(金)の東北地方太平洋沖地震により被災した方々に、真摯なる哀悼を捧げ、ひたすら主の恩寵を請い願うものである。

1 ヘハロートの魔術公式

(1) マセー・メルカバの継承

モートン・スミスの英訳遺稿『大ヘハロート』がドン・カルにより校正され、完全な形で公開されたのは2009年であった。同年、ローランド及びオルロフが『神の神秘：初期ユダヤ神秘学と新約聖書』のなかで『小ヘハロート』の完訳を掲載した。これまでシェーファーらのドイツ語訳『ヘハロート文学翻訳』だけが唯一の完全訳を提供していたので、(英語で読めるのは)非常に喜ばしい限りだ。

しかし、改めて読み込んでみると、神秘学または魔術の実践シナリオには不適當であることが分かる。無意味文字列である「野蛮な名前」(nomina barbara)が多すぎて、全体を記憶できないのである。これで道行(path working)を行うなど論外だ。それではヘブル語を解し、中世のユダヤ式記憶術(律法の記憶)⁽¹⁾をマスターした達人たちであれば可能なのか。どうもそうではないらしい。ヘハロート文書を実際に使用されたシナリオであると考えること自体が間違っているのである。

ゲルシヨム・ショーレムは、中世にカバラが生まれるまで、紀元前1世紀から10世紀頃までの約千年間のユダヤ神秘主義には一環した統一と伝統の継承があると述べ、それらを次の3大勢力が継承していったものと推定した。⁽²⁾

古い黙示論者の匿名の秘密集会

名前の伝えられるミシュナー教師らのメルカバ思弁

後期タルムードとタルムード以降の時代のメルカバ神秘主義(ヘハロート文書の成立)

そして、これをイサマル・グリュエンワルドが継承拡大したため、⁽³⁾「ショーレム・グリュエンワルド理論(タクソノミー)」と呼ばれる定説となった。⁽⁴⁾確かに「メルカバへの下降者」(ヨレド・メルカバ hbkrm drwy)⁽⁵⁾は、古代末期にヘハロート文学が成立して以降、「戦車のわざ」(マセー・メルカバ hbkrm h#(m))を用いる者の一般名称となっている。しかし、伝統の継承という事実と、その原典文書群が実践記録であるか否かは関係ない。

マーサ・ヒンメルファーフは、ハーバーリン、シェイファーらの比較的新しい反論「ヘハロート文学は、実行された儀式ではなく、繰り返された物語として理解されるべきだ。」⁽⁶⁾を支

(1) Jacob Neusner, *The Memorized Torah*, University of South Florida, 1985, passim.

(2) ゲルシヨム・ショーレム『ユダヤ神秘主義』法政大学出版会、1985年、60頁。

(3) I. Gruenwald, *Apocalyptic and Merkavah Mysticism*, Leiden : E. J. Brill, 1980, passim.

(4) Andrei Orlov, *The Enoch-Metatron Tradition*, Tubingen : Mohl Siebeck, 2005, p.3.

(5) M.D.Swartz, "The Seal of the Merkavah" in *Religions of Late Antiquity in Practice*, Princeton : Princeton University Press, 2000, p.323

(6) 多数の文書に言及されている。代表例は、David Halperin, *The Merkavah in Rabbinic Literature*, New Haven : American Oriental Society, 1980, pp.1-5. 及び Peter Schafer, *Hekhalot Studien*, Tubingen : J. C. B. Mohr, 1988, pp.64f. である。

持し、『小へハロート』の結びに「§ 419 このミシュナーを毎日、祈祷のあとに反復せよ。」と記述されている点を指摘する。確かに生命がけで行う上界への旅を、毎日、しかも、日に3回も実践するのは現実的ではない。⁽⁷⁾

紀元前から10世紀頃まで連綿と続く前カバラ期のユダヤ教神秘主義の伝統という魅力的なタクソノミーは、現在の学説では否定されている。また、半ば神話的なへハロース文学の内容が実話集ではなく、一種のストーリー・テリングであるという解釈も同様に定着した。

もちろん、コミュニティの連続性など問題ではなく、秘儀の靈魂、精神性を継承すれば、羊皮紙やパピルス断片、墓石の刻印からでも、伝統は再生できるという考え方も正しい。

しかし、大小へハロース等の文書群が物語であれば、後世の実践者が解釈を加えても良いであろう。物語とは常に再解釈を加えられ、生命を新たにしていくものだからだ。

旧約聖書やミシュナーの主要部分を絶対的な必要に迫られて暗記していた中世のユダヤの達人たちに経緯を表しつつ、⁽⁸⁾ コンピュータの助けなしには自分の書いた文書も脳内に保持できない現代人たるわれわれは新たなコンテクストを構築しよう。

(2) ヨレド・メルカバ

ジェームス・ダビラは、へハロート文学とシャーマニズムとの技法類縁性を指摘した。かれの整理によれば、次の6点が技法の特性である。⁽⁹⁾

シャーマンの呼唱 シャーマンの苦行的技法 初期分解と再統合 異界への旅 霊の制御 人間のコミュニティへの奉仕

メルカバへの下降者(ヨレド・メルカバ)は、次を体験する。

第1の呼唱(call)は、召喚の野蛮な名前やシャントにおいて多々説明したので省略する。

第2の苦行的技法については、身体束縛、断食、浄化の手法、参籠などがある。代表的なものは、参籠(isolation)である。サル・トーラー文書においては、儀式を始める前に12日間の参籠を義務づけている。「(§ 299)・・・室内に、或いは上部の廊室に12日間参籠せよ。その間、外出できず、他者の入室も禁じる。また、飲食してはならない。夜間のみ、自ら焼いたパンと清浄な水を飲む。いかなる副食も摂ってはならない。」⁽¹⁰⁾これは非常に大切な準備行動であり、意識を強く集中するために行われる。現代生活では非常に難しいが儀式開始前の数時間、最低でも1時間はひとりになることを強く推奨する。

第3の初期分解と再統合は強烈な体験である。神の御座に近づく前に、ばらばらに引き裂かれ、焼かれて灰となり、炎の身体に再統合される。これについては、次項で述べる。

第4の異界への旅は、説明を要しないであろう。本日、体験して頂く。

第5の霊の制御は、様々な段階がある。へハロート文学では、エノク=メタトロンが案内者、調停者、秘儀開示者となる場合が多い。律法の宰相たるメタトロンの導きにより、儀式執行者が自らメタトロンの権威を行使し、天使群に命令を発する。『大メルカバ』には、7天穹を支

(7) M. Himmelfarb, *Ascent to Heaven in Jewish & christian Apocalypses*, New York : Oxford University Press, 1993, pp.108-110.

(8) リチャード・ジムラーの小説『リスボンの最後のカバリスト』(而立書房、2009年)には、ヘブル語の書物を発見されると死刑にされるポルトガル在住の隠れユダヤ教徒の主人公が、必要な情報を心の奥底に黄金色の輝きとともにある<トーラーの記憶>に納める描写が随所に描かれている。

(9) (James R. Davila, pp.151f.) "The Ancient Jewish Apocalypses and the Hekhalot Literature" in *Paradise Now*, Atlanta : The Society of Biblical Literature, 2006, pp.106f.

(10) *Übersetzung der Hekhalot Literatur II* § 81-334, Tübingen : J. C. B. Mohr, 1987, pp.287f.

配する7人の大天使（宰相）を召喚する方法が記述されている。⁽¹¹⁾

第6は、霊界と人界とを結ぶサイコポンプとして、霊的な体験を所属するコミュニティの共通善のために用いる。

（3）炎の変容

俗に言う『第3エノク書』、別名『セフェル・ヘハロート』において、語り手であるラビ・イシュマエルが第七天においてメタトロンと対峙したとき、メタトロンから人間であったとき主の栄光により、炎に変容したことを聞かされた。⁽¹²⁾

「たちまちわが身は炎となり、わが腱は高熱を発する火となり、わが骨は輝く石炭となり、わが脛は光輝く稲妻となり、わが眼は燃えさかる炬火となり、頭髮は高温発する炎と化す。わが四肢は燃え上がる火の翼となり、わが体軀は火にあぶられる。わが右手には燃えさかる炎の軍団が、わが左手には炎の刻印が吹いている。四周を暴風と嵐が取り巻き、前と後ろには地震のなかに碎ける稲妻が走る。」⁽¹³⁾

（4）感覚の遮断

ある無記名のカバリストはヒトボデドゥースの要点は目を閉じることだと述べた。⁽¹⁴⁾

室内を暗くして黎明視を求めるのも、ほぼ同等の行為であるが、感覚が遮断され、物理的な世界から隔離されることで、幻視が深まる。瞑想中は、目を閉じて、または、半眼となっていることが望ましい。むろん、所作を伴い、危険のある場合は異なる。

（5）祭司の手

アブラフィアは、『セフェル ハ・ヘセク』において、手を動かす作法を論じた。⁽¹⁵⁾

「両目を天に向け、左手と右手を天に掲げよ。あたかも祭司がなすように、（10本の）指を分け、5本を一方に、5本を他方に向けよ。左手の2本と、右手の2本（つまり、両手の）の小指（ケミザー）と薬指（ツェレト）をひとつにし、反対側の2本もひとつにする。両者を分け、親指は立てたままとする。・・・そして、神のもとにあげていた両手をただちにおろし、10のセフィロトを思いつつ、5つのセフィロトが5つのセフィロトの上にあるように、左手を心臓の上に置き、右手をその上に置く。」
両手の10本の指はセフィロトに照応し、開いた手はメノラーのかたちをしている。



2 司官の配置

（1）司官の指定

本儀式に必要な司官は、PRAECEPTOR（P C）、すなわち「先導者」の1名である。

P Cは、黄金の夜明け団の伝統的な白の法衣を纏い。白のネミスをかぶり、マントやその他の役職記章はつけていない。右手に「ハリエロファントの棒」をもつ。それは神殿を開き、つなげる権威の象徴である。

他の参列者は、内陣団員は白の法衣と白のネミスを、外陣団員及びプロベিশヨナーは、黒の法衣と白黒縞のネミスをかぶり、手には何も待たず参集する。

(11) *Übersetzung der Hekhalot Literatur IV* § 598-985, Tübingen : J. C. B. Mohr, 1991, pp.67-71.

(12) James R. Davila, *Descenders to the Chariot*, Boston : Brill, 2001, pp.151f.

(13) Hugo Odeberg, *3 Enoch or The Hebrew Book of Enoch*, chap.XV[§ 19], New York : Cambridge University Press, 1928, p.39.

Übersetzung der Hekhalot-Literatur I, § 1-80, Tübingen : J. C. B. Mohr, 1995, pp.43f.

(14) Idel, *Studies in Ecstatic KABBALAH*, p.134.

(15) Idel, *The Mystical Experience in Abraham Abulafia*, pp.29f.

ディオン・フォーチュンの内光協会のアストラル神殿儀式では、参集者は儀式場に座ったまま、光体（かれらはアストラル体と呼称）を下位アストラル神殿に投射する。そのとき光体は全裸であり、神殿の着衣の間（Robing Room）において、光の法衣を纏う。

（２）トラーの宰相の召喚

司官は、マルクト神殿で律法の公爵を召喚し、メタトロンの顕現たる大天使の長上が「肉の衣を去る」までは、実効上の神（天使を使役する者）として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

3 アストラル神殿の構造

マルクト神殿を使用する。

4 魔術の技法的側面

（１）封印の受肉

起誓言などを多用するメルカバ神秘主義において、「封印（Mtwx）」は護符（amulets）に記されて術者が携行するほか、術者の肉体に直接書き込まれる場合があった。^{（16）}

マーヴィン・メイヤーらは、コプト語呪文の研究のなかで、ギリシャ語の聖なる七母音が神像の胸に入墨されている例を示した。^{（17）}

バル・イランは、『マセー・メルカバ』の「七の封印」を例にとり、次のように述べた。「封印がどのように刻印されたか、さだかではない。祈祷する神秘家の四肢に封印が刻印され、神聖なる霊視を得るための不可分的手段となっている。」^{（18）}

（２）聖四文字の呼吸

聖四文字の呼吸においては、ペリマーが世界が流出を開始する以前の「無の性質」に直結し、マーが流出後の「有の性質」を表現する。

呼吸法において、hy を詠唱する際は、「ヨー・ヘー」と発声する。瞑想中は、呼吸する際に喉を空気が通る音ぐらいの高さで囁く。息を吐きつつヨーと詠唱し、息を吸いしつつヘーと詠唱する。その際は、心中にそれぞれの文字を視覚化する。^{（19）}

息を吸いながら発音するのは難しいが、無理に大きな声を出す必要はない。その音は術者の心のなかに響きわたれば良いのである。

今回は、すでに境界を跨いだアストラル・ライトのなかで、「無の性質」を象徴するヨド・ヘーの呼吸と「有の性質」を象徴するヴァウ・ヘーの呼吸を併用し、祭壇の上に「有と無の融合」を現出させる。

（３）呪歌の力

本儀式においては呪歌を使用する。

ヘブル語においてシーラー hry#（複数形シーローズ twry#）とはシャントを意味する言葉である。『申命記』第31章に説明されるとおり、折りに触れユダヤの民が歌うようにと定められた歌のことだ。

ラビ・シェファール・ゴールドによれば、シャントの恍惚体験は全き献身による観想的空間への移行を可能とする。観想的沈黙の文脈のなかにおいてシャントの力が深化し、発展するための空間が作り出される。シャントは『詩編』23章5に示された「溢れる盃」（コシ・ルバヤ

（16） Janowitz, *Icons of Power*, pp.79f.

（17） Marvin Meyer, *Ancient Christian Magic*, Princeton : Princeton University Press, 1999, pp.231, 280.

（18） Lesses, *Ritual Practices to Gain Power*, p.317f.

（19） Gershon Winkler, *Magic of the Ordinary*, Berkley: North Atlantic Books, 2003, p.30.

hywr yswk) である。そして、あふれる盃には2種類があり、シャントを唱える者たちのなかに生成される。

第1の盃は、各人の心臓の上にある内的な盃であり、盃には生命と愛の源泉から途切れることのない流れが注ぎ込まれあふれ出ている。シャントは、その流れと自分自身を再結合する。

第2の盃は、シャントを唱える集団のなかに生成される。唱和するシャントの音と、注意力の共有が盃を生む。その盃には神聖な流れが注ぎ込んでおり、集団に属する誰でも盃からあふれる神聖な流れに触れることができる。⁽²⁰⁾

(4) 呪符等の構成

ヘブル語の神聖名は、文字として書かれた場合でも声に出して歌うのと同等の効力を発する。しかし、シャントを正しく用いると特別な効果が生じるのは前出のとおりである。

『マナセの祈り』に曰く「神は深淵を閉じ、力強く誉れある自らの名で封印した」⁽²¹⁾

呪符については、アブラフィアの文字のカバラから借用した。聖四文字の文字を分解して使われるシャント及びヘブル語の各文字を連唱するシャントは各所で用いられている。⁽²²⁾

(5) 黎明視

視覚情報の混乱による幻視「シャルル・ボネ諸侯群」⁽²³⁾、言語入力 of 混乱、呪文の反復（単純類似構音の連続による記憶操作⁽²⁴⁾）などを利用する。

5 身辺の準備

(1) 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に快適な椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

部屋を薄暗くする。小さな照明を利用する場合は、背後に置き、その光を直視しないように配置する。

何度も反復して練習し、象徴や、儀式の細部まで呑み込んでいても、外部の妨害ですべてが台無しになることもあり得る。準備は、怠りなく。

(2) シナリオ

今回も、シナリオ文書を単純化したので記憶してもらいたい。黎明視の妨げとなるので、テープの録音も不要である。

あなたの行動する部分は緑の文字で記してある。

神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

事前のリハーサルは勿論、必須とも言える。

(3) 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、L B R Pを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

(20) Rabbi Shefa Gold, "That This Song May Be a Witness : The Power of Chant", in *Meditation from the Heart of Judaism*, Woodstock : Jewish Lights Publishing, 1997, p.85.

(21) The Player of Manasseh, in *The Old Testament Pseudepigrapha*, New York : Doubleday, 1985, p.634.

(22) 一例として、Joseph Naveh & Shaul Shaked, *Amulets and Magic Bowls : Alamaic Incantations of Late Antiquity*, Jerusalem : The Magnes Press The Hebrew University, 1998, pp.44-49.

(23) <http://jiten.com/dicmi/docs/k12/17252s.htm>

(24) グザヴィエ・スロン 『認知神経心理学』 白水社、1995年、63、64頁。

第2章 儀式

1 神殿への入場

この準備的作業は、光体のレベルではなく、生身の肉体で行う。

参加者は、東に面して座り、目をかすかに開き（いわゆる半眼の状態）にする。視線は足下に落とし、家具などの周囲の状況が明確に像を結ばないようにする。瞼を開く程度を変えて、この焦点を結ばない状態を維持する。気持ちが悪くなった場合は、普通に眼を開いて、もう一度調整する。

半眼のまま、深く呼吸をする。呼吸は肺だけではなく、全身の皮膚を通して行う。一息ごとに、喉や鼻孔のみならず、全身の皮膚から、周囲に満ちている生気が肉体に吸い込まれ、全身の細胞を活性化する。

あなたは光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとボアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたI O Sの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

2 ウシャブティ

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るP Cが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」P Cは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話の形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

P Cは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

3 物見の塔の儀式

P Cは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式及び物見の塔の儀式を行う。

参加者は、その動きを廊室から、おぼろげな円運動による渦の発生として捉える。詳細なP Cの動作を視覚化する必要はない。

4 入場及び宣言

P Cは神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

P Cの霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。

兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち、姉妹は左側、北の壁際に立つ。

P Cは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。

P C：「I O S の兄弟姉妹たちよ。春分の儀式を開始せん。」

5 律法の宰相の召喚

P C：「七つの封印を光体に刻印せん。」

PCは聖なる名前を唱えたあと、剣指をつくり、揃えた両膝に当てる。

参加者もPCの動作に倣う。

PC：聖名とともに唱える。「アブリース ススティイー。わが脚を封じる。」

(yytss syr w))

全員：「わが脚を封じる。」

PC、参加者は剣指を心臓に当てる。

PC：聖名とともに「アバグ バググ。わが心臓を封じる。」(ggb gb))

全員：「わが心臓を封じる。」

PC、参加者は剣指を右肩に当てる。

PC：聖名とともに「アリム ティパー。わが右腕を封じる。」()pyt Myr))

全員：「わが右腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を左肩に当てる。

PC：聖名とともに「アブリース セシー イアー。わが左腕を封じる。」

(h)y yst syr w))

全員：「わが左腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を首に当てる。

PC：聖名とともに「アビス セル バグ エル ヤーブ ドゥーエル。わが首を封じる。」

(l)wyd wy r) gb lt tyb))

全員：「わが首を封じる。」

PC、参加者は両手を胸の前で組む。

PC：聖名とともに「アブ パク キテル スス エイカド ヤドヤド ヤー。わが生命とすべての部分を守護するために。」(hy dydy dx) ss r+yq K)p w))

全員：「わが生命とすべての部分を守護するために。」

PC、参加者は両手を頭上高く差し出しV字を形造る。

PC：聖名とともに「オーブ パス ヤーウ キーブ ヨー ザハブ ヤーウ ティティス。わが天蓋を封じる。」(styt why whz wy wyx why tp Pw))

全員：「わが天蓋を封じる。」

PCは封印の完成とトーラーの宰相への呼びかけを行う。

祭壇の傍らにいるPCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、律法の宰相のテレズマ的姿形が融合し、再形成されてPCの霊的外形が急激に変化する。

PCが宣言する。

PC：「われは、聖なる五つの文字に表象される無敵の一者なり。

四風を聖化するは、われなり。

五界を結ぶは、われなり。」

6 四風の聖化

P Cは東を向いて宣言する。

「I O S の神殿に四方位の風を召喚せん。」

神殿の東壁の中央に扉が現れた。

P Cは、東に向い高らかにヘブル語を詠唱する。それは、四方位の風をふるわせる呪歌である。

P C：「エロウイイー

(yhl) わが力の根元よ。)

ネシャマー・シェー・ナタフター・ビー

(yb twhtw)n h)w# hm#n 汝が授けし息吹よ。)⁽²⁵⁾

テホラー・ヒー

(yh hrh+ そは清浄なり。)

アター・バラター

(ht))rb ht) 汝がそを創造せり。)

アター・ヤツアルター

(ht) rcy ht) 汝がそを形成せり。)

アター・ネファクター・ビー

(yb ht) xpn ht) 汝はそを我に吹き寄せる。)

ヴェ・アター・メシャムラー・ブキルビー

(wrqb trm#m ht)w また、汝は我がうちにあるそを監視する。)

ヴェ・アター・アティード・リット・ラー・ム・メフニイー

(ynpmm w)l+l d+) ht)w また、汝はいつかそを我より取上げる。)」

全員：「バラフター・ヴェ・ヤツアルター

(ht) rcyw ht))rb 創造と形成)」

P Cは、東の方向に宝瓶宮のサインを描く。

P C：「ヒー・ネイ・ニー (yn hnh われはここに)

ヒー・ネイ・ニー (yn hnh われはここに)

ヒー・ネイ・アーニー・ヤー (hy yn) hnh われはここに、神の息吹の)

アナ・ホウシーアー ((#why hn) 加護のあらんことを)」

全員：「ヤー・アナ・ホウシーアー

((#why hn) hy 息吹の加護あらんこと)」

P Cはヨド・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

P C：「ヨー」(呼気)「ヘー」(吸気)「ペーリー・マー」(無の性質を強く意識する。)

全員：「ヨー」(呼気)「ヘー」(吸気)「ペーリー・マー」(無の性質を強く意識する。)

東の壁いっぱい、黄色い照り返しを浴びた雲海がひろがる。

雲海は下から湧きあがる雲の断片で沸騰するようだ。

その黄色い雲の渦の中心に、仄かな薄暗い陰が生まれる。

その陰は人型をつくる。人型の頭部が紫色の光を放つ。

これはエロヒムの影だ。

(25) 来る()wb)の変化形(yb)は、「霊が我がうちに入りたり(xwr yb)btw)」(『エゼキエル書』2：2)のように使われる。

P Cは、祭壇の南に回り、南の方向に獅子宮のサインを描く。

P C：「アーニー・ポー (whb yn) われと名前なきもの)
アーニー・ポー (whb yn) われと名前なきもの)
エロヘイ・イスラーエル (l)r#y yhl) 主の力よ)」

全員：「エロヘイ・イスラーエル (l)r#y yhl) 主の力よ)」

南の壁いっぱいに、紅蓮の炎が燃えさかる。
爆発的な溶岩の噴出、燃え上がる硫黄の噴煙を炎の陰に垣間見る。
その炎の壁のただなかに、巨大なたてがみのある生き物が見える。
強靱な爪のある筋肉の束が炎を掻き分ける。
それは獅子のすがたをもつ炎である。

P Cは、祭壇の西に回り、西の方向に天蠟宮のサインを描く。

P C：「アーニー・ポー (whb yn) われと名前なきもの)
アーニー・ポー (whb yn) われと名前なきもの)
ホウシーアナ (hn) (#why われを助けよ)」

全員：「ホウシーアナ (hn) (#why われを助けよ)」

P Cはヴァウ・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

P C：「ヴァウ」(呼気)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)

全員：「ヴァウ」(呼気)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)

西の壁いっぱいに、ブルー・オーシャンがひろがる。
それは砂浜近くの明るい海水ではなく、海底の伺えない深海の青黒い海原である。
小島ほどもある巨大なうねりが押し寄せてくる。
その大うねりの海水の表面に、途方もなく巨大な翼ある生き物の影が映る。
それは鷲の翼のようである。

P Cは、祭壇の北に回り、北の方向に金牛宮のサインを描く。

P C：「アーニー・ポー (whb yn) われと名前なきもの)
アーニー・ポー (whb yn) われと名前なきもの)
エレッツ・カーナーニー (yn(nk Cr) カナンの地よ)」

全員：「エレッツ・カーナーニー (yn(nk Cr) カナンの地よ)」

北の壁いっぱいに、乾いた大地がひろがっている。
地平線の彼方には、雲をまといつかせた山脈が遠望できる。
彼方の雪の峰から手前にかけては、なだらかな丘陵地帯になっており、
その丘の上に角のある生き物の影が射す。
生き物は牡牛のように見える。

7 宰相たちの臨在

PCは、祭壇の西に回り、東面する。全員が東面する。

PCは両手を祭司の手のかたちとし、そのまま額より高く掲げる。

全員が祭司の手をつくり、両手をあげる。

PC：「7天穹に宰相たちの臨在を祝福する。

アーハー・アーハー イーハー・イーハー ホォー・ホォー ヒィー・ヒィー
ハーアー・ハーアー ()h)h yh yh wh wh hy hy h) h))」⁽²⁶⁾

全員：「7天穹に宰相の臨在を祝福する。」

PC：「ミカエル(l)kym) 御座を守る大いなる宰相、第1天穹の守護者よ。

アーハーアー・アーハーアー・アーハーアー・アーハーアー
ヤーヴェー・ヤーヴェー・ヤーヴェー
アーイー・アーイー イーアーイー・イーアーイー
(y)y y)y y) y) hwhy hwhy hwhy)h))h))h))h))」
両手を水平の位置におろして、祭司の手のまま前方(東)を指す。

全員：「ミカエル(l)kym) 御座を守る大いなる宰相、第1天穹の守護者よ。」東を指す。

PC：「ガブリエル(l)yrbg) 第2天穹を守る義なる宰相よ。

アーヴェー・アーヴェー ヴェーアーヴェー アーアー
イーアーヴェー アテェー ホーアー
()wh t) w)y)) w)w w) w))」
手を下ろすことなく祭司の手で東を指す。

全員：「ガブリエル(l)yrbg) 第2天穹を守る義なる宰相よ。」東を指す。

PC：「スリエル(l)yrws) 第3天穹を守る宰相よ。

ヤーヴェー・ヤーヴェー エル・ラコーム
ハーヴェー・ハーヴェー・ハーヴェー アーヴェー・アーヴェー・アーヴェー
(w) w) w) wh wh wh Mw xr l) hwhy hwhy)
ピー・ピー・ピー ヴェーハー・ヤーハー・ヤーハー
アヒー・アヒー・アヒー
(yh) yh) yh) hy hy hw yp yp yp)」
手を下ろすことなく祭司の手で東を指す。

全員：「スリエル(l)yrws) 第3天穹を守る宰相よ。」東を指す。

PC：「アカトリエル(l)yrtk) 第4天穹を守る宰相よ。

アーヴェー・アーヴェー ヴィー・ヴィー ハーヴェーハー・ハーヴェーハー
エヘイエー・アシエル・エヘイエー アヒー・アヒー カル・スケム
(Mks lk yh) yh) hyh) r#) hyh) hwh hwh yw yw w) w))
アーヴェー・アーヴェー ハーイーハー ホー・ヒー・ヒー
アーヴェー・イーアーヴェー ホーアー
()wh w)y w) yh yh wh hyh w) w))」

(26) 『大メルカバ』の現存する7種類の版では、神名表記が微妙に異なるので整合性を重んじて再構築した。確認した原文は、次による。Synopse Zur Hekhalot-Literatur, Tübingen : J. C. B. Mohr, 1981, p.244-247.

手を下ろすことなく祭司の手で東を指す。

全員：「アカトリエル(l)yrtk) 第4天穹を守る宰相よ。」東を指す。

P C：「ラファエル(l)pr) 第5天穹を守る宰相よ。

イーアーヴェー ホー イーアー イーアーヴェー ホー・ホー・ホー・ホー
()h)h)h)h w)y)y)h w)y)

マーハーヴェー・マーハーヴェー イーアーハーヴェー・イーアーハーヴェー

イーアーヴェー アーヴェー アーヴェーアー

ヴェーアーヴェー イーアーイーヴェー

(wy)y w)w)ww) w) w)y wh)y wh)y wh)m wh)m)」

手を下ろすことなく祭司の手で東を指す。

全員：「ラファエル(l)pr) 第5天穹を守る宰相よ。」東を指す。

P C：「パウディエル(l)ydw) 第6天穹を守る宰相よ。

アーハー・アーハー・アーハー アーヴェー・アーヴェー・アーヴェー

ベーハー・ベーハー・ベーハー ハーガー・ハーガー・ホード

(dwh gh gh hb hb hb w) w) w) h) h) h))

ハーヴェー・ハーヴェー ヤーハーヴェー・ハーハーヴェー・ハーヴェー・ハーアー

ヤーハーヴェー・ハーアー

()h why)h wh whh why wh wh)」

手を下ろすことなく祭司の手で東を指す。

P C：「イブマエル(l)mwy) 第7天穹を守る宰相よ。

いかなる地にても、祈りは聞き取られん。昼において、夜において。

海において、乾いた陸において。いかなる時にても、召喚は聞き取られん。」

手を下ろすことなく祭司の手で東を指す。

P C：「たちまちわが身は炎となり、わが臍は高熱を発する火となり、

わが骨は輝く石炭となり、わが脰は光輝く稲妻となり、

わが眼は燃えさかる炬火となり、頭髮は高温発する炎と化す。

わが四肢は燃え上がる火の翼となり、わが体軀は火にあぶられる。

わが右手には燃えさかる炎の軍団が、わが左手には炎の刻印が吹いている。

四周を暴風と嵐が取り巻き、前と後ろには地震のなかに碎ける稲妻が走る。」

P Cの言葉どおり、かれのオーラは松明のごとく燃え上がり、左右前後は炎の海となる。

P C：「七天穹の宰相の臨在が祝福された。」

P C：「祈りの声を聞かれない。偉大にして強大なる主よ。

高貴にして慈悲深き君よ、その眼差しは被造物にあまねく下される。

汝が従僕たる祈り手に向き直り、好意を持ち答えたまえ。

全宇宙の主よ、万物の造り主よ、宇宙の一者よ。

わが叫びに答え、天の門を開きたまえ。

汝が膝下にある貴顕の御名を召喚するものなり。」⁽²⁷⁾

P Cが高らかに唄い始める。

(27) James R. Davila, *Descenders to the Chariot*, Boston : Brill, 2001, p.113.

PC：「リー・イエー・シュー・アッ・チャー・キー・ビー・ティー・シャーディー
(yd# Cwbq hyx) #y yl 汝が導きにわが望みを主よ。)
キー・ビー・ティー・シャーディー・リー・イエー・シュー・アッ・チャー
(hyx) #y yl yd# Cwbq 我が望みを主の導かれるままに。)
シャーディー・リー・イエー・シュー・アッ・チャー・キー・ビー・ティー
(Cwbq hyx) #y yl yd# 主の導きに我が望みを。)」

PC：「サティームー・ヴェ・ゲー・リアー()ylgw Myts)」

全員：「隠され開示されたり。」

PCのオーラの炎が静まり、煌めく輪郭が炎の変容の名残を示すだけとなる。
聖化した四方位の風に取り巻かれ、王の臨在のもと、春分の秘儀にあずかる。

PCは、神殿の北に行き、南を向いて言う。

「この場は、光と闇の至聖処なり。
今、頭上に春分の太陽があり、
光は闇と均衡せんとしている。
われは律法の宰相として、
春分の執行を宣言する。」

8 春分の主祭

PCは、神殿の東側から中央を向いて言う。

PC：「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。
IaHaVaHa (ヤアー・ハアー・ヴァー・ハアー)
HeVeHeIe (ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ)
VoHoIoHo (ヴォー・ホォー・イョー・ホォー)
HIHV (ヘー・ヨド・ヘー・ヴァウ)」

PCが宣言する。

PC：「大いなる周行をもって、祭壇に集中せん。」

祭壇を軸として、3度周行する。

PC：「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。春分は到来せり。」

PCは、祭壇の東に立ち、西に向かってハーボクラテスのサインを行う。

PC：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

PCは、祭壇の西に廻り、東に向かってホルスのサインを行う。

PC：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

PC：「パスワードは交換された。」

全員が祭壇を取り囲む。

PC：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。」

無敵なる主の顯現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員：「主よ。われらは自らを捧げん。

わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。

汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員、東を向く。

全員：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！

聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！

聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！

光と闇の主よ。」

9 諸天使の出立

P Cは祭壇の北に行き、南を向く。

P C：「七天穹の宰相の加護に感謝する。

靈の虚の場所に戻りたまえ。」

P C：「律法の宰相の加護に感謝する。

靈の虚の場所に戻りたまえ。」

P Cは再度、祭壇の西に行き、東を向く。

P C：「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。

ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー (hw#hy)

万軍の将、靈の虚の場所に住まわん。

ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー (h#why)

戴冠せる王、靈の虚の場所に住まわん。

光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

P C：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。

主の聖靈は、森羅万象の上にあり、下にあり、内にあり、外にもある。

主よ、生ける靈と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。

律法の宰相は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

10 地上への帰還

P C：「人の子らよ。律法の宰相は、去れり。されば、地上に帰還せん。」

P Cは《ヴェールを閉じる》サインを行う。

P C：「イエヘシュアーとイエホバシャーの御名において、

この儀式により拘束されし、すべての《靈》を解放せん。」

P C：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。（特別な手順は必要ない。）光の法衣とともに儀式中に刻印された封印、その他の印は精妙界に去る。

その後、静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙が続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA
I O S
RITUALE DE
AEQUINOCTIO VERO XIA

IMPRIMI POTESST : I O S
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6
MARTIUS MMXI

春分儀式 V E 1 1 A

Copyrights © All rights reserved I O S 2011

2011年3月15日 I O S 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I O S の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I O S の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。

表紙図版：作者不詳無題